

ITインフラ再構築 コンサルティングサービス のご案内

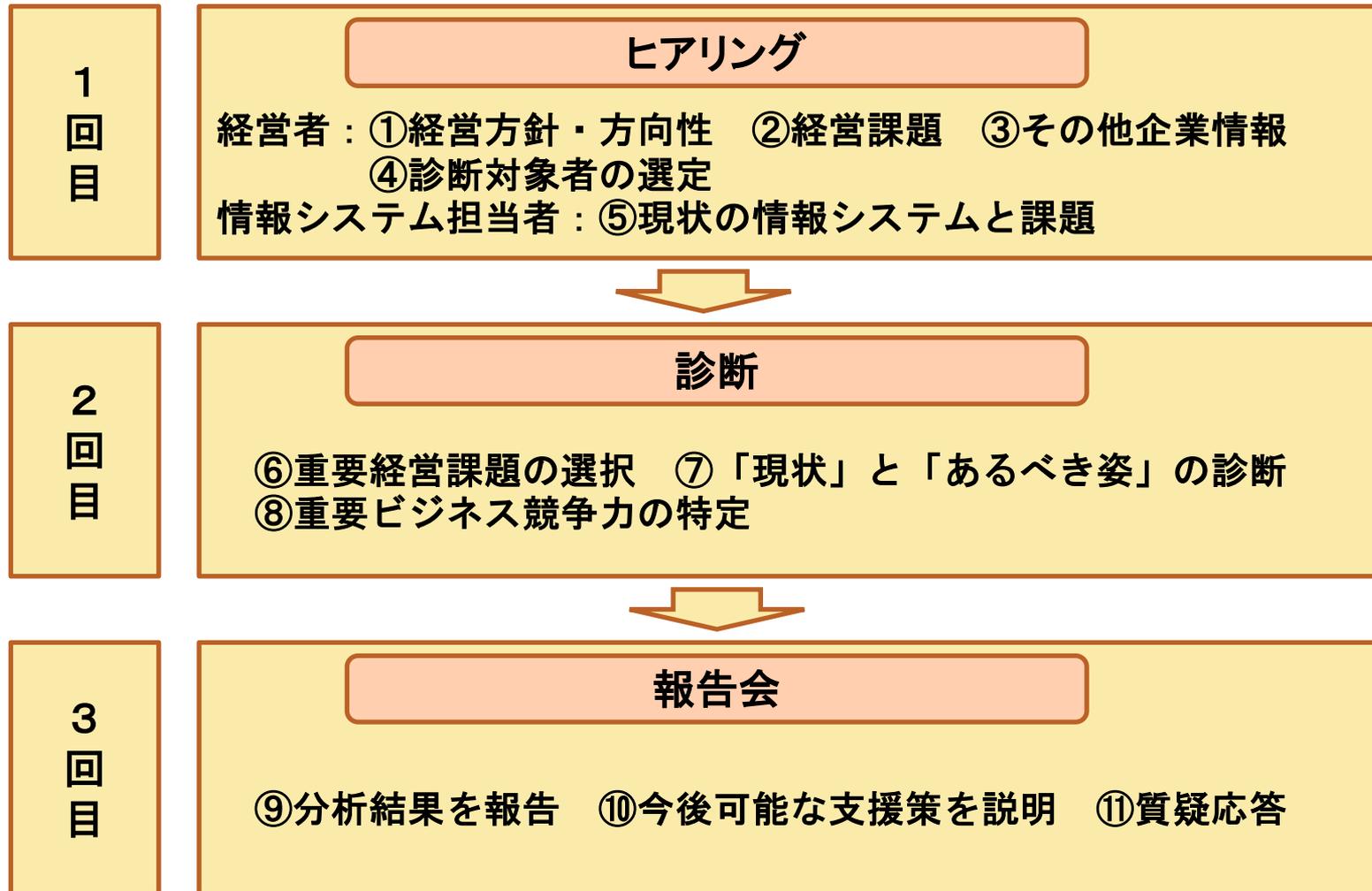
e診断ドットコム

中小企業診断士 谷川 隆一

1.情報化診断

- 情報化診断では、「ヒアリング」、「診断」、「報告会」の3ステップにより、現状の課題をもとに、課題解決に必要な実現要素を検討し、望まれる情報システムを検討し、ご提案するものです。
- 情報化診断では以下の効果が期待できます
 - 経営課題について認識を深められる
 - 「現在の姿」、「目指す姿」の診断
 - 重要ビジネス競争力の特定
 - 解決のための実現要素(人間系、IT系)

2.情報化診断の流れ



2-1.1 回目 ヒアリングについて

- 情報システム部等、全社の管轄部門がございましたら、担当部門長に現状の情報システム・導入効果・課題等についてヒアリングさせていただきます。

- 経営方針、方向性、経営課題などについて社長ヒアリングをさせていただきます。

合わせて、続けてヒアリングさせていただく部門長様についてご指名いただきます

- ※ 通常、生産部門長、営業部門長、研究・開発部門長、管理部門長(資材調達などあればその部門も)にご対応いただきます。

2-2. 2回目 診断(ヒアリング)

- 各部門長にその分野の現状、課題、情報システムに対するご意見を伺います
- その際、規定シートで重要経営課題についてお伺いします

(項目例)

- 既存事業の転換(低コスト構造、高付加価値化等)
- 売上拡大(新市場、新製品、新規顧客等)
- 製品力・サービス力の拡大(品質、開発力等)
- スピード経営への転換(開発期間、納期、製造リードタイム等)
- また、「現状」と「あるべき姿」、ビジネス競争力に関する調査をさせていただきます
 - 調査は経営基盤、情報化基盤、業務プロセスなど14項目です。これらについて、(規定シートで)現状と目標をお伺いします。

2-2. 2回目 診断(ヒアリング) 続き

- この段階で各部門長の皆さまに最重要課題、キーとなるビジネス競争力、重要と考える実現要素についての「合意形成」をさせていただきます。
- 上記の「合意形成」のお時間が無い場合には、当社にて重要課題を選択、ご報告させていただきます。

2-3. 3回目 報告会

- いただきましたヒアリング情報により、最重要課題の分析、その最重要課題解決のために必要なIT経営実現要素(人間系、IT系)について下記の視点でご報告させていただきます。
 - 経営戦略の視点
 - 経営計数管理の視点
 - リスク管理の視点
 - 人間と組織の視点
 - 情報活用の視点
 - ITインフラ運用の視点
 - プロセスの視点

3. 診断実施の内容とご依頼事項

日	時間	実施項目	ご依頼事項	ファシリテータの役割
1	数週間前 (2時間程)	ご説明とヒアリング	貴社の概要、経営方針をお聞かせ下さい。 診断実施日をお決め下さい	診断内容のご説明をいたします
	前日まで	診断の事前準備	診断の担当者を選定して頂き、ワークブックに事前に目を通しておいて頂きます	電話、メール等でサポートします
2	診断実施 (各担当 2時間程度)	<u>重要経営課題と成熟度の診断</u>	ワークブックを利用して担当者による診断(ヒアリング)を実施します	診断の支援をします
	説明会 まで	診断結果を分析し <u>課題解決指針</u> を立案	診断の実施後に補足事項を電話、メール等で確認させていただきます	提案書の作成をします
3	数週間後 説明会 (2時間程)	作成した提案書の説明会を実施	診断担当者の方々のご出席と講評をお願いします	提案内容をご説明します

5. 診断後の調達・開発・導入(1)

情報化診断以降は、標準的には、以下の流れでシステム導入プロジェクトを立ち上げ、システム導入を進めていきます。

社内合意の形成・確認

最重要経営課題についての合意形成
自社の「現状」と「有るべき姿」についての合意形成



調達要件検討

機能、技術、運用、品質、セキュリティ、モニタリング、
予算、納期



ベンダーからの情報収集



RFP・調達仕様作成

範囲、期待効果、予算、体制、業務フロー、教育、開発、保証等



5. 診断後の調達・開発・導入(2)

